

第5学年 道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
学校名 小学校
対 象 第5学年1組27名
授業者 〇〇 〇〇

1 主題名 かけがえのない自他の命 D [生命の尊さ]

2 ねらいと教材

- (1) ねらい かけがえのない命を守ることについて考え、自分の命だけでなく、他者の命も改めて大切にしようとする心情を育てる。
- (2) 教材 「二十分間の出来事」出典：「新・みんなの道徳」5年（学研）

3 主題設定の理由【指導観】

本主題は、小学校新学習指導要領解説「特別の教科 道徳」（平成29年3月告示）

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 「生命の尊さ」 [第5学年及び第6学年] 生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。 [中学校] 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

を受けて設定した。

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

あらゆる命には限りがあり、生あるものは必ず死を迎える。そして、生命は一度失うと二度と取り戻せないものであり、唯一無二の世界にたった一つしかないものである。故に、生命はかけがえのないものである。また、自分の生命は、父や母、そして祖父、祖母など先祖代々から奇跡的に、そして連続的に伝わってきた尊いものである。

このように、生命を大切に尊重しようとすることは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の現れと言える。

しかし、自分が生きているということ、家族や友人など自分に近い人が生きているということを当たり前と捉え、日常から「生命の尊さ」について考えたり、振り返ったりする機会は多くないと考える。

自他の「生命の尊さ」について考え、その尊さを自分事として考えていくことは極めて重要である。また、高学年では生死や生き方に関わる生命の尊厳、死の重さ、死に至るまでの過程で限りある生命を懸命に生きようとする尊さについて心情や態度を育てていくことが求められる。

自分の命だけでなく、他者の命を改めて大切にしようとする心情を育てるために、自分が普段当たり前にあると思っていることや当たり前だと感じているものは、当たり前ではないという尊さ、普段何気なく一緒にいる家族や友達の尊さを「命」という視点から改めて考えさせたい。

本学習では、かけがえのない命を守ることについて、東日本大震災を扱った教材を通して考え、

自分の命だけでなく、他者の命を改めて大切にしようとする心情を育てたい。

(2) 児童の実態について【児童観】

本学級の児童は、理科「魚のたんじょう」の学習で、めだかを飼育した。どのような大きさの生き物も、人間と同じ命をもっており、大切であるということ気付かせるために、児童には、メダカを自分たちで世話をさせた。児童がめだかの卵を観察した際に、小さな卵の中でめだかが生きていることに驚いていた。そして、次第にめだかが成長していく様子を見て、初めはほんの小さかった生命がたくましく育っていく過程に感動する児童の様子が見られた。また、めだかが死んでしまった際には、死を悲しむ児童の姿もあったことから、身近な生き物のもつ生命の尊さを感じているようであった。国語の漢字の学習では、「命」という漢字は「人を一つ一つ叩いているもの＝心臓」から成り立っているという教師の話に、多くの児童が熱心に耳を傾ける様子が見られた。

本教材である東日本大震災は、多くの命が失われ、自他の命に対して、畏怖や畏敬の念を感じ改めて「生命の尊さ」について考えさせられる大きな災害であった。

しかし、本学級の児童は2010年、2011年生まれの児童であり、東日本大震災で起きたことについて実感を伴っていない児童が多い。生や死に関する経験は人それぞれであるが、自分が生きていることや家族、友人が生きていることの尊さについて考えながら生活をしている児童は多くないと考えられる。そこで、本時の前時間に東日本大震災について触れ、震災の当時の様子や被災した人々の思いなどを知った上で、本教材を扱うこととした。

本学習では、東日本大震災を通して、かけがえのない命を守ることにについて考え、自分の命だけでなく他者の命を改めて大切にしようとする心情を深めたい。(配慮事項として、本教材を扱う際に、児童の近親者に被災した人はいないことを確認した。)

(3) 教材について【教材観】

東日本大震災が発生した時、福島県にある新地駅に停車していた電車に、乗客とともに乗っていた新人の巡査2人が、津波が来る20分間の間に乗客を全員避難させ、津波から命を守ったという話である。以下の教材分析表で発問を分析した。

(教材分析)

場面	児童の思い	考えられる発問とその意図	関連する内容項目
1 新地駅に停車していた電車で被災し、大津波警報を確認する場面	<ul style="list-style-type: none"> ・早く助けたい。 ・もう津波が迫ってきているから、とにかく高台へ避難させよう。 	<p>○大津波警報を確認した巡査たちはどんな思いから乗客たちを避難させようとしたのでしょうか。</p> <p>→警察官として、また人としてかけがえのない命を救いたいと行動する心情を引き出したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・善悪の判断, 自律, 自由と責任
2 70代の女性が残らせてほしいと言いつつ出さず場面。	<p><高齢女性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はもう無理かもしれない。 ・このまま家族を待ちたい。 <p><巡査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・諦めてはいけない。 ・絶対、おばあさんの命を救わないと。 	<p>◎「残る」といった足が悪い高齢女性と説得をした斎藤巡査は、それぞれどんなことを考えていたのだろうか。</p> <p>→津波が迫り、巡査は自分の命も危うい状況の中、高齢女性を説得する巡査と高齢女性の背景にある心情をそれぞれ捉えさせることで「生命」を多面的・多角的に捉えさせたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公正, 公平, 社会正義 ・家族愛 ・親切, 思いやり ・希望と勇気, 努力と強い意志 ・勤労, 公共の精神
3 警報から20分間に乗客全員の命を救うことができた場面。	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対助けるという気持ち。 ・一人の命も落とさせないという気持ち。 ・高齢女性が諦めかけた命を救うことができてよかった。 	<p>○警報から20分間で乗客全員を救うことができたのは、2人の巡査にどんな気持ちがあったからだと思いますか。</p> <p>→一人でも多くの命を救いたいと思う心情を引き出すとともに、高齢女性の気持ちを考えた巡査の思いも引き出すことで、かけがえのない命を守ることにについて、多面的・多角的に考えさせたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公正・公平, 社会正義 ・親切, 思いやり

東日本大震災発生時、新人の巡査2人が乗客全員の命を救うことができたのは、津波が来る20分間に素早い判断をし、適切に行動したことが挙げられる。その行動の背景には、自他の生命を大切にしようとした思いがあったと考えられる。その思いは、警察官という職業から生まれる使命感や責任感から来るものでもあり、一人の人間として、一つの尊い生命を助けようとする気持ちから来るものであると考えられる。

また、津波が迫り来る中、足が思うように動かせない高齢女性が「家族を待つ」と言い、巡査は5分間説得する場面があり、ここを中心発問の場面と捉えた。理由は2つある。

1つめは、「斎藤巡査の立場だったら」、「高齢女性の立場だったら」と考えることで、「生命の尊さ」を多面的に捉えることができると考えたからである。

2つめは、足の悪い高齢女性の気持ちと説得をする斎藤巡査の両者の置かれた場面と状況を考えることで、「生命」について多角的に捉えることができると考えたからである。

高齢女性は「津波が襲ってくる中で、足の悪い自分が1キロ先の高台にある役場に向かわなければ命が助からない。」という現実を、斎藤巡査は「津波が襲ってくる中で、家族を待つと言う足の悪い高齢女性を助けたいが、自分の命も危ない」という現実を、それぞれ多面的・多角的に考えさせることで、かけがえのない命を守ることにについて考え、自分の命だけでなく他者の命も改めて大切にしようとする心情を育てることができると考えた。

4 研究主題に迫るための手立て

研究主題「明確な指導観をもった道徳科授業～多面的・多角的に考えさせるための指導方法の工夫～」に迫るため、「明確な指導観をもった道徳科授業」と「多面的・多角的に考えさせるための指導方法の工夫」を分けて、それぞれの捉えと手立てを考えた。

- (1) 「明確な指導観をもった道徳科授業」の指導観とは、価値観、児童観、教材観の3つを合わせたものと言える。その上で、「明確な指導観をもった道徳科授業」という研究主題は、「ねらいとする道徳的価値を明確に捉え、児童の実態を把握した上で、適切な教材解釈のもとで道徳科授業を行うこと」と捉えることができる。

価値観…かけがえのない命を守ることにについて、東日本大震災を扱った教材を通して考え、自分の命だけでなく、他者の命も改めて大切にしようとする心情を育てたい。

児童観…東日本大震災が起きた年に生まれた児童が多い。東日本大震災がどのような災害だったかを知り、改めて自他の命の尊さや大切さを考えさせたい。

教材観…登場人物の心情を多面的・多角的に捉え、「生命の尊さ」について、様々な見方を通して心情を深めさせたい。

- (2) 「多面的・多角的に考えさせるための指導方法の工夫」の「多面的・多角的」は、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」に以下のような記載がある。

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が多様な感じ方や考え方に接することが大切であり、児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められる。【小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第2節 道徳科の目標 (3 物事を多面的・多角的に考える) より抜粋】

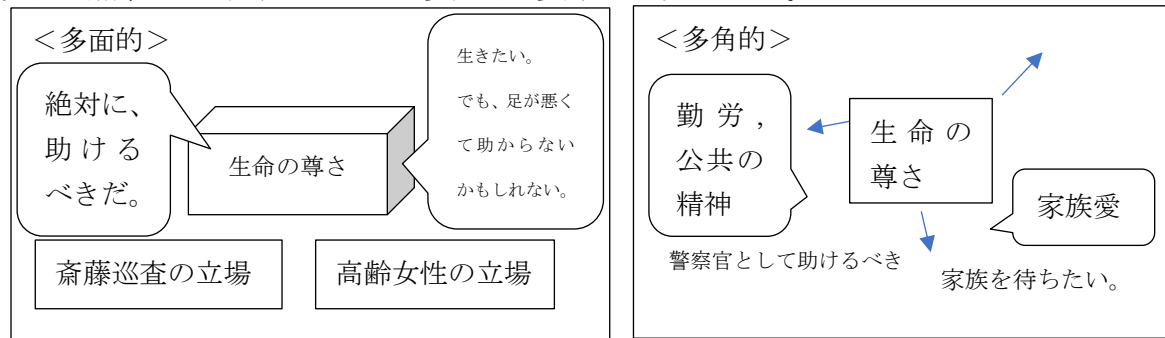
「多面的に考える」とは、物事を一面的に捉えるのではなく、児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な立場から物事を見る視点をもちながら考えることであると言える。

「多角的に考える」とは、児童自らが道徳的価値の理解を基に、自分の考え方や生き方について考えをもちながら考えることであると言える。

そこで、「多面的・多角的に考えさせるための指導方法の工夫」として、3点の工夫を講じた。

ア 発問の工夫：「多面的・多角的に考えさせるための発問の工夫」

中心発問において、津波が迫り来る中で、家族を待つと言う、足が思うように動かせない高齢女性と斎藤巡査の両者の気持ちを多面的・多角的に考えさせる。



中心発問における「多面的に考える」とは、斎藤巡査の立場、高齢女性の立場からそれぞれ考える考え方のことである。

斎藤巡査は、「津波が迫り来る中で、この女性の命を助けなければいけない」という気持ちである。その反面、「自分の命も危ない。」と自他の生命について葛藤している場面でもあると言える。

高齢女性は、「家族を待ちたい」という気持ちをもつ一方で、「足が悪いから、1キロ先の高台には間に合わないかもしれない。」と、生きることを諦めてしまう気持ちについて児童に考えさせたい。

中心発問における「多角的に考える」とは、生命の尊さに関連する道徳的価値であると捉える。「家族を待ちたい。」という高齢女性の心情の背景には、家族愛という道徳的価値があり、その女性を助けるために説得するという行動の背景には、警察官や一人の人という立場からくる勤勞, 公共の精神、公正・公平, 社会正義や善悪の判断, 自律, 自由と責任という様々な道徳的価値がある。「生命は尊いものである」と画一的に捉えるのではなく、児童が考える「生命の尊さ」の見方、考え方を通して、様々な道徳的価値について考えさせたい。

両者の立場から「生命の尊さ」に向かっていく中に生じる葛藤や思いを考えさせることで、改めて自分の命だけでなく、他者の命についても考えを深めることができると考えた。

イ 教材配列の工夫：「2時間扱いとし、前時に東日本大震災について学習をする。」

本時を2時間目として、1時間目に東日本大震災について当時の映像を見せ（配慮済み）、東日本大震災に関する理解を深めることを通して、本時のねらいにつなげたい。理由は、児童の多くが東日本大震災を実感として捉えていない児童が多いからである。本教材にある、大地震、大津波警報、津波が来ることなど具体的に想起できなければ、ねらいとする道徳的価値が一面的、概念的な理解に留まってしまうと考えた。

そこで、2時間扱いとし、前時に東日本大震災について学習することにより、本時でねらいとする道徳的価値について捉えさせたい。

ウ 話し合いの工夫：「Google for EducationのJam boardアプリケーションを活用した意見共有」

中心発問では、Google for EducationのJam boardアプリケーションを活用する。斎藤巡査と高齢女性のそれぞれの立場に分かれて、クラウド上で付箋を活用し、意見共有を行う。付箋には、自分の意見と名前を書くことを指示する。他の人の付箋を動かさない、消さないなどの日常の中で活用している基本的なルールを基でJam boardを活用する。時間でそれぞれの立場を交換し、どちらの立場も考えられるようにする。意図は2つある。

1つめは、自分の考えを明確にするためである。多面的・多角的に話し合うためには、自分の意見を明確にもち、物事を自分事として考えることが大切である。

2つめは、一人一人の児童の考えを基にして、児童が意見を聞きたい他の児童を見つけることにより、話し合いが活発化するからである。多面的・多角的に考えさせることで児童間に考えの違いが生まれることが考えられる。その違いについて話し合い、より深めることができるの

ではないかと考えた。

5 学習指導過程

	学習活動（主な発問・予想される児童の発言）	◇指導上の留意点 ★評価
導入	<p>1 教材への導入を図る。</p> <p>○あなたは「当たり前にある。」と思っていることはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家に帰ったらご飯があること。 ・家族がいること。 ・自分の命 	<p>◇児童の身近に東日本大震災で被災した児童がいる場合には、精神面のケアなども含め十分に配慮して本授業を行う。</p> <p>◇児童に当たり前にあるものについて想起させ、学習後に改めて当たり前にあるものの尊さについて考えさせたい。</p>
展開	<p>2 教材「二十分間の出来事」を読み、話し合う。</p> <p>○この話を聞いて、どんなことを感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20分間で全員を助けた警察官の二人がすごい。 ・高齢女性は残ると言ったけど、警察官が諦めずに5分説得したところが心に残った。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>斎藤巡査が大切にしたことは、どんなことなのだろう。</p> </div> <p>◎「残る」といった足が悪い高齢女性と説得をした斎藤巡査は、それぞれどんな気持ちだったのだろうか。</p> <p>＜高齢女性の立場＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はもう無理かもしれない。 ・このまま家族を待ちたい。 ・家族はどこにいるのだろうか。 <p>＜斎藤巡査の立場＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諦めてはいけない。 ・絶対、高齢女性の命を救いたい。 ・自分の命も果たして助かるのだろうか。 <p>（補助発問）</p> <p>＜高齢女性の立場＞</p>	<p>◇高齢の女性は、家族を待ちたいという思いがあること、足が悪いこと、高台にある役場は1キロ先あるという事実をおさえた上で中心発問をする。</p> <p>◇Google for Education の Jam board アプリケーションを活用し、意見共有を行う。その際に、互いの立場から多角的に考えることができるよう、時間を配分する。</p> <p>◇「家族を待ちたい」という発言が出た場合、補助発問をするとともに、板書で「家族」という</p>

<p>●生きることを諦める意見に偏った場合</p> <p>○この高齢女性の生きようとする気持ちは0%なのかな。</p> <p>→0%ではない。本当は生きたい。という意見を引き出したい。</p> <p>○残りたいと言っていたから、残してあげればよかったのではないかな？</p> <p>→本当は生きたいという気持ちを引き出したい。</p> <p>＜斎藤巡查の立場＞</p> <p>●自分の命を投げ捨てても、高齢女性を助けたいという意見</p> <p>○自分の命は大切にしなくてもよいのだろうか。</p> <p>→自分の命も尊いものであり、自己犠牲をして他者の命を救うという一面的な見方・考え方について改めて考えさせることで、自他の生命を大切にしようとする考えを引き出したい。</p> <p>○斎藤巡查が大切にすることは、どんなことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対助けるという気持ち。 ・生きることにあきらめそうな人がいても、絶対に諦めさせないという気持ち。 ・自分の命も大切だけど、それ以外の人の命も大切にしようとする気持ち。 	<p>言葉に赤丸をし、生命の尊さは家族愛の道徳的価値に関連することを示したい。</p> <p>◇斎藤巡查が自分の命に危険が迫っていることについての意見が出た場合、そこに迷いや葛藤があったことをおさえる。</p> <p>★高齢女性の立場と斎藤巡查の立場からかけがえない命を守るについて多面的・多角的に考えているか。(Jam board、発言)</p> <p>◇一人でも多くの命を救いたいと思う心情を引き出すとともに、高齢女性の気持ちを考えた巡查の思いも引き出すことで、かけがえない命を守るについて、多面的・多角的に考えさせたい。</p>
<p>3 自己を振り返る。</p> <p>○東日本大震災で起きた出来事について学習し、命についてあなたが考えたことや思ったことを書きましょう。(今までの自分を振り返って書ける人は、書きましょう。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災での出来事を知って、今自分が生きているということは当たり前ではないと思った。 ・今まで命について、なんとなく大事だと思っていたが、この学習を通して、もっと大事にしたいと思い、家族が生きていることもありがたいことなんだと思った。 	<p>◇導入の時に当たり前だと思っていることはどんなことだったか想起させ、命についての意見を取り上げる。</p> <p>★自分の命だけでなく、家族や友達が生きていることの尊さについて改めて考えようとしていたか。(ワークシート)</p>
<p>終末 4 教師の説話「いのちのろうそく」</p>	<p>◇教師の体験談を話す。</p>

終末での教師の説話「いのちのろうそく」

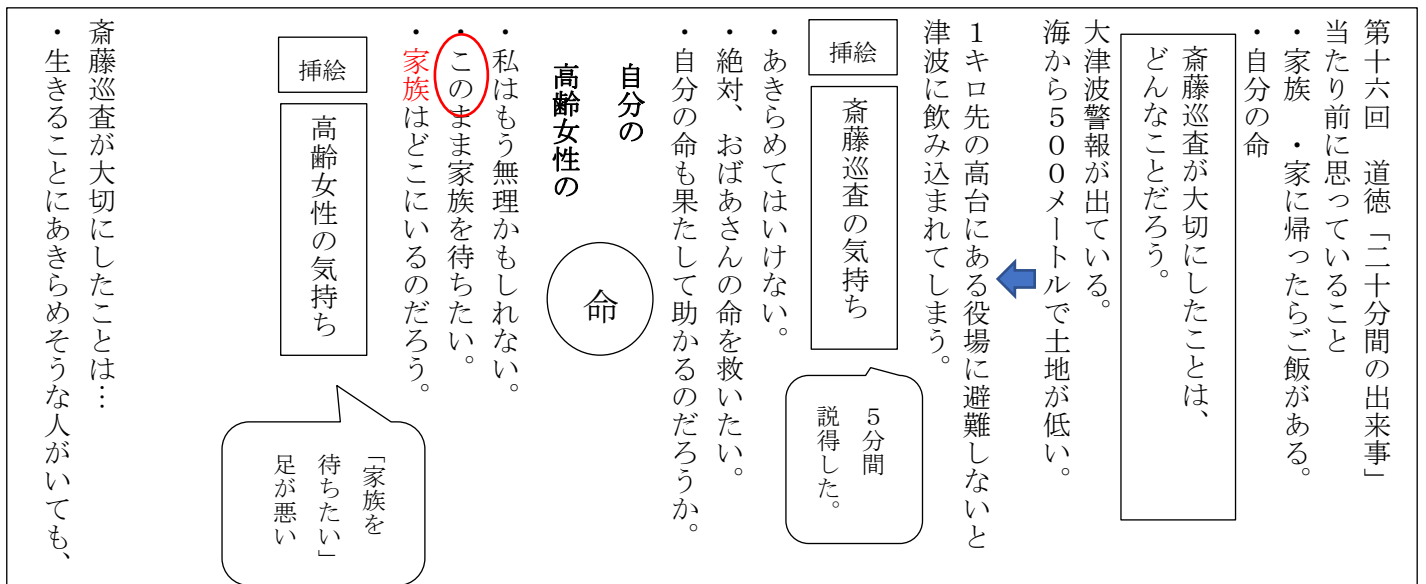
東日本大震災の年。2011年3月11日。私は大学生でした。ちょうど舎人公園という場所でテニスの試合をしていました。14時46分。建物全体、公園の時計台、木々が大きく揺れ、乗ってきた電車は橋桁の上で上下に波打っていました。電車は全て止まってしまいました。9時間休むことなく歩き続け

ました。携帯電話の電池は切れてしまいました。9時間後に初めてニュースを見ることができました。東北の大津波の様子を見ました。黒い波が家を飲み込み、車が流されていく様子に目を疑いました。

あなたは、一本の命のろうそくをもっています。あなたが生まれた瞬間にそっと火がつけられます。あなたの命のろうそくの火はろうそくがある限り、燃え続けます。最後の最後に、自然に消えるまで燃え続けます。命のろうそくの長さは目には見えません。長い人もいれば、短い人もいます。決して自分で自分の命のろうそくの火を消してはいけないし、誰かのろうそくの火を消してはいけないのです。しかし、ある日突然、自分は消したくないのに、ふと消えてしまうこともあるのだと、3月11日を境に思い知らされました。

私は東日本大震災を経験して考えたことがありました。それは、命のろうそくを最後の最後まで燃やし続けるために、遠く離れた家族に連絡をとって大切にしよう、自分ができることを精一杯やろうと思うようになりました。

6 板書計画



7 授業観察の視点

研究主題「明確な指導観をもった道徳科授業～多面的・多角的に考えさせるための指導方法の工夫～」

1. 明確な指導観をもった授業構想になっているか。
2. 多面的・多角的な指導方法の工夫として以下の手立ては効果的であったか。
ア：発問の工夫：「多面的・多角的に考えさせるための発問の工夫」
3. 多面的・多角的に考えられる発問構成となっていたか。
イ：教材配列の工夫：「2時間扱いとし、前時に東日本大震災について学習をする。」
4. 2時間の教材配列は、東日本大震災について理解を深め、児童の教材理解に役立てられていたか
ウ：話合いの工夫：「Google for EducationのJam boardアプリケーションを活用した意見共有」
5. Jam boardの活用によって、多面的・多角的な話合い活動を行うことができたか。